

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100166		
法人名	医療法人至誠会		
事業所名	グループホームあかり		
所在地	佐賀県佐賀市本庄町大字本庄264-1		
自己評価作成日	令和4年6月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和4年8月24日	外部評価確定日	令和4年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物の近くには住宅地、建物の前には託児所があり地域の皆様の生活を感じながら落ち着いた環境の中でお過ごしいただけます。
日常生活では、入居者様に調理や洗濯物たたみなどの家事を行って頂いており、一人ひとりが役割を持てるよう支援しています。全体会議を月に一度、個別のカンファレンスを3カ月に一度、利用者会議を月に一回を行い、利用者様の意向に沿った支援ができるよう配慮を行っています。接遇面についても、職員一人ひとりが利用者様へ敬語での声かけを行っており、丁寧な対応を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

平成22年に開設された「グループホームあかり」は、医療法人グループ内の一事業所である。広い法人敷地内に事業所はあり、病院や保育園にも隣接している。毎月2回の往診と健康診断、夜間でも連絡や相談ができる等のサポート体制が確立されている。家族や利用者は、医療面、健康面に安心感を持っている。敷地内での散歩の途中に保育園児に笑顔で手を振ったり、近くのスーパーや住宅地を見ることもできる。事業所の二階から望める市街地や田園風景からも、利用者は安らぎを覚え、地域を感じることができる。
ホームでの一日の暮らしは、ゆったりとした時間が流れている。職員は利用者一人ひとりの尊厳を尊重し人生の先輩との念をもって接している。支援にあたっては、常に良き接遇を常に目指しており、言葉遣いも優しく、丁寧である。利用者会議で、思い出や暮らしの希望も聴き、支援に活かしている。
コロナウィルス感染防止のために、面会や外出をはじめ、諸々の制限がある中で、職員一同は知恵と工夫を出し合い、日々の暮らしの変化や気分一新を図っている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域でその人らしく生活できるよう支援する」という理念をあげている。事務所の見やすい箇所に掲示している。	年度初めの会議で理念の確認をしている。また、毎週月曜日には理念を唱和することで共有化を図り、同じ歩調での支援を目指している。そして、地域とのつながりを含めて利用者第一の支援が実践されている。理念の具体的な姿について、管理者の適切な指導と助言もあり、支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナウイルス感染予防の為、地域行事への参加は行っていない。	現在はコロナウイルス感染防止のため、地域とのつながりが中断したかたちになっているが、以前は地域からの認知症に関する相談に乗ったり、利用者の散歩の際に出会った近所の方に気軽に話しかけたり等で地域と親しい関係が保たれていた。コロナが落ち着けば、以前のような地域との親しい交流ができる関係が保たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在コロナウイルス感染予防の為、地域行事への参加は行っていない。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施。コロナ感染状況によっては自治会長、地域包括支援センターに書類を郵送している；。	2ヶ月毎に開催の年間計画であるが。コロナウイルス感染拡大防止のため、書面による会議がほとんどである。運営推進委員には資料を送付し、活動内容や行事予定を報告し、各委員の意見を伺っている。コロナ禍での支援状況、利用者と家族とのつながりを保つ面会等の工夫についても報告し、意見を伺っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点等あれば、電話連絡や行政の窓口を訪ね、事業所の状況や課題解決に向けた話し合い等を行っている。	主に管理者が中部広域連合事務所に直接出向いたり、電話等で疑問点や必要事項の確認や連絡、相談を行っている。行政とは常に連携が保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で身体拘束について学ぶ機会がある。 コロナウィルス感染予防の為、玄関ドアについては現在は施錠して入出の制限を設けている。	身体拘束はない。言葉遣いを含めた接遇面には特に留意しており、スピーチロックによる心の拘束もない。 法人やグループホーム内で計画的に研修会や勉強会が実施されており、職員は身体拘束や虐待のない支援への意識も高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会、研修で高齢者虐待について学ぶ機会がある。また年に2回事業所独自の勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年齢層が高くなり、ご家族より相談を受けることも出てきており、ご家族から問い合わせ等あれば助言を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の段階から当施設について説明を行ない、契約の際もご家族の話に耳を傾け、質問等に対しても出来る限りの対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的な苦情受付窓口を設置している旨を重要事項説明書に記載し、契約時に説明を行なっている。	これまでは主に面会時に直接要望や意見を聴いてきたが、現在は面会が制限されており、電話やメールで聴くことが多い。毎月発行しているお便りで暮らしの様子をお知らせしている。ご意見箱も置かれている。 家族アンケートに、優しく温かい支援で不安定さがなくなった、食事についての要望を叶えられた等の回答もあり、これは要望や意見を運営に反映している一例である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の会議にて出された意見や提案に対して、出来る限り反映できるように取り組んでいる。年に2回職員と個人面談を行い、そこで出た意見などは会議で検討を行っている。	毎月、定例会議が開かれている。職員から感染症対策、設備等の改善、用品の購入、より質の高い支援を目指しての意見等が出されている。管理者が利用者の支援業務に携わることもあり、お互いに遠慮なく意見等が言える環境である。 管理者は、常に代表者や部長と連絡、報告、相談をし、意思疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業はほとんどない。また、年に2回評価をつけ、結果が個人に渡される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染予防の為、外部研修の機会は作れていない。施設内では、月に1回勉強会を行い、職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防に伴い、同業者との交流はほとんど行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された際、再度要望等を本人に確認している。本人が不安なこと等を話しやすいようにアセスメントの生活歴などを参考に世間話を交え話に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に入居の際はご家族から不安なこと等を聞かれるため、極力時間をかけ、要望等に耳を傾けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人、ご家族へ生活歴の聞き取りを行い、グループホームでも取り組める内容を含めたケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、注ぎ分け、洗濯ものたたみ、掃除など入居者様のADLに応じ職員と共同で行なっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とはガラス越し面会にて交流あり。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防の為、実施できていない。	コロナ禍のため、思うような支援ができていない。知人等の来訪もお断りしている。家族との面会は、ガラス越しである。携帯電話やオンライン面会も可能であり、去年はタブレット持参の利用者もあった。常に家族との絆が保てるようにと支援している。グループホームの電話利用も可能で、家族の承諾を得ての、知人との会話等も可能である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月に1回利用者会議を実施し、利用者様一人ひとりの意見反映ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係が途絶えているのが現状である。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居の際やケアプラン作成の際など本人様の要望を伺ったり、表情等をみたり、ご家族様からの要望や希望などを聞くように努めている。入居後は本人様と話す機会を定期的に設けている。	日常の会話やつぶやき、行動や表情の変化を心のサインと受け止め、その心情を汲み取っている。利用者会議では、テーマを決めて話を出してもらっている。戦時中や戦後の暮らしの様子、遊びの思い出、行きたい所、食べたいものなど、話は多岐にわたっている。それらの中から、思いや意向を察して、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が仕事をされていた時や趣味の話などの生活歴を伺うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の日々の状態を観察し、本人とお話をしたり、職員より、状況の報告を受け現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を職員間で行っており介護計画を作成している。ご家族とは電話にて話を行い、意向の聴取等を行っている。	家族や利用者の意向を踏まえて、具体的に現状に即した計画が作成されている。担当者会議には、管理者、計画作成担当者、利用者の担当職員が参加している。担当職員には責任を持って支援にあたってほしいとの管理者の願いもある。介護計画は全職員が共有している。家族には事前と事後にその意見を伺い、利用者中心の計画が立案されている。介護計画は3か月毎に、或いは利用者の状況に応じて随時見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の様子や気づきなどを記入するようしており、特に気になることがあればその都度記録、報告を行っている。個別記録、申し送りノートは出勤した際に確認を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	見学の際や、入居後も要望やニーズに合わせて、問い合わせがあれば同法人の他の事業所を紹介している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルス感染予防の為地域資源の活用は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人であるなゆたの森病院が協力医療機関であり、月に2回往診を受けられている。その他の眼科などはご家族に協力してもらい、定期的を受診されている。状況に応じて職員が同行し、適切な医療を受けられるように取り組んでいる。	家族や利用者の希望する医療機関での受診であるが、全員が協力医療機関での受診希望である。毎月2回の定期的な往診があり、夜間を含め何時でも対応できる体制にある。日中は看護師が常駐し、利用者の状況に応じた適切な支援ができています。歯科は訪問診療を支援している。家族や利用者には医療面や健康面、安全面に不安が無く、安心感をもっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師を配置。必要時にカンファレス、また、月に1回の会議の中で、情報交換を行い適切な医療を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人に入院する機会が多いため、ソーシャルワーカーと情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を契約時に説明・同意を得ている。 終末期については意思確認をしており、本人の状態に応じて病的な部分では医師、看護師等から説明してもらい、それを基に事業所のできる事、できないことについては説明を行いました承して頂いている。また、方針なども共有している。	契約時に指針を基に丁寧に説明し、利用者や家族の承諾を得ているが、入居後の体調状況に応じて、その都度家族に連絡し、相談をしている。 看取り介護は過去に一例あったが、現在は看取りの状態にある利用者はいない。終末期の状態になれば、改めて家族や利用者の意思を確認している。主治医、看護師、その他の関係者と一体になっての支援体制が整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時フローチャートを作成し、職員全員が急変などに対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	病院や同法人の施設と合同で年に2回避難訓練をおこなっている。	事業所が別途に定める消防計画にのっとり、隣接する法人内三事業所と合同で、年に2回避難訓練を実施している。夜間及び昼間を想定し、利用者も参加しての避難訓練である。二階にある事業所のエレベーターが使えないことを想定し、階段を使用しての避難訓練である。 カーテンは防災性能のあるものを使用している。また、自然災害等に備えての非常食や飲料水、使い捨て食器も準備されている。	
の集荷を					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄後の確認もコールを鳴らして頂いたり、周りに聞こえないように確認するようにしている。	利用者一人ひとりの尊厳を尊重することをあらゆる支援の基盤としている。利用者の誰もが心に持っている誇りを大切にしている。人生の先輩として、尊敬の念をもって接している。接遇面を重視し、敬語を心がけ、言葉遣いも丁寧である。管理者は、接遇について適切な助言と指導を行っている。 個人情報保護は運営規程に基づき、きちんと保護されている。スナップ写真の掲載も、事前に家族の承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の準備等職員と一緒に行動することで、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の様子、表情や、体調などを考慮し、その時に応じて対応を変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回程度のペースで散髪にきて頂いている。また、着替える洋服等は職員と一緒に選んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備、食器洗いを無理のない範囲で行ってもらっている。 食事形態も入居者に合わせてとろみをつけたり、刻み食を提供している。テレビを消し、音楽を流して食事が楽しめるように取り組んでいる。	食事はホームの台所で準備され、その様子は食事の楽しさを増している。昼食を誘導している優しい声も聞かれた。汁物を注ぐ椀には柄付きの物を使用し、食事を摂り易い様にと工夫している。配食サービスを利用しているが、嗜好調査や利用者・家族の要望が食事形態に反映されている。職員は利用者の自尊心を配慮して、そっと見守っての食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に応じて食事介助を行ったり、食事形態を変更して対応している。 月に1回、体重測定を行ない、体重の増減をみている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、ご自分で出来ない方は職員にて介助を行っている。 夜間は入れ歯を預かり毎日洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行ない、排泄のパターンの把握に努めている。車椅子の方でも希望があれば、トイレでの排泄を行っている。失禁された際も速やかに対応している。	利用者一人ひとりの排泄状況や習慣が把握されている。日中はトイレ使用の利用者がほとんどで、車椅子使用の方もその希望に沿ってトイレ使用を支援している。車椅子の方にもトイレの広さは十分である。利用者の排泄パターンやサインで早めにそっと声をかけての誘導である。 排泄がうまくいかなかった場合は、羞恥心に十分配慮しての支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼食前、夕食前に嚥下体操を行っている。水分補給を心掛けている。必要な方には下剤も使用している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前中に無理強いせずに入浴して頂いている。入りたくない等の意向があった場合は翌日に対応をして、意向を反映できるよう支援を行っている。	週に3回、午前中の入浴を基本にしているが、毎日の入浴や時間帯変更の希望があれば、できるだけ応える様にしている。入浴時間もその方に応じて入浴してもらっている。シャンプーは、好みで自分用の使用もできる。入浴後は、保湿剤を塗布している。現在、入浴剤を用意し、温泉気分を味わってもらうようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	14時30分から全体レクリエーションを行っており、その他は自由に居室に戻り休憩したりして過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のカルテに薬情を挟んでおり、全ての職員が閲覧できるようにしている。また不明な点は看護師に相談できるよう体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備等その方に合ったことを無理のない範囲で行ってもらっている。レクリエーションも毎日行っている。趣味活動についても取り組めるようカンファレンスで話し合いを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為、外出の機会は少ない。ご家族のみガラス越し面会を行っている。	コロナウィルス感染防止のため、外出が制限される中でも、感染に十分に配慮しながら、外出の機会を設けている。人と接触する機会が少ない事業所敷地内を散歩したり、季節や天候をみての外気浴もある。乗り降り無しでのバスバイクも、密にならないよう2回に分けて実施している。 外出機会が少ないだけに、行事等にも工夫をこらし、日常生活の変化を試みている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所の立て替えとなっている。家族様了承のもと現金を所持されている方もおられる。お金の支払いについては、認知症もある為、施設にて支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば行っている。携帯電話を持たれている方もおられ、ご家族と話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に沿った飾りを行ったり、皆様が作られたものや写真を掲示したりしている。	廊下は一直線で何の障害もなく移動できる。また、毎月のホーム便りや職員と一緒に作製した季節の作品も掲示されている。リビングは自然光で明るい。無用な音も無く静かである。空調も快適に管理されている。台所は対面式で、利用者を見守りながら食事の準備ができる。本や新聞も置いてある。管理者のギターと一緒に歌うこともある。利用者はソファで思い思いにくつろいだり、テレビを楽しんだりしている。 浴室、トイレの広さも十分で、利用者が混乱をきたす要素は見つからない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、食堂にて過ごされる利用者様同士での交流がみられている。居室で休みたい利用者様は居室で休まれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の馴染みの物や、使い慣れたものを持って来て頂いている。	各居室ともベッド、タンスが備え付けられている。寝具、衣類、その他必要なものは持参することになっている。ぬいぐるみ、化粧品、手鏡、その他、本人が馴染んだ物や使い慣れたもの、好みの物が持が込まれている。持参された専門書で読書を楽しまれている方もある。 各居室とも家族の協力と職員の支援で、その方らしい部屋になっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の利用者様についてもADL維持の為、自操で動いて頂いたり配慮をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない